

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	アシャリフ モハマッド レザー		所 属	工学部 情報工学科	
職 名			職 名	教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	学部担当科目: DSP, Simulation, 先端情報工学概論(1/4), Frontier Engineering (URSP)に担当教員英語で行う, Technical English Presentation(技術英語発表)。大学院担当科目: 信号処理論, Technical Reading & Writing, Signal Processing Theory (for special course in English), Overview of Engineering Program (for special course in English), 博士(後期課程担当科目: 音響信号処理特論(Acoustic Signal Processing) (given in English for Japanese or Foreign students), 学生支援: 卒業生6人、修士4人(2人留学生)、博士1人、計11名		0.30	DSP:前期行いました。Simulation:後期行いました。先端情報工学概論後期行いました。URSEP(Frontier Engineering)後期行いました。大学院担当科目: 信号処理論前期行いました。Technical Reading & Writing (TRW)前期行いました。Overview of Special Program for Engineering:講義担当後期行いました。Signal Processing Theory (for special course in English)後期行いました。博士(後期課程担当科目: 音響信号処理特論(Acoustic Signal Processing)開講なし。Technical English Presentation (技術英語プレゼン)講義担当後期行いました、英語で卒業論文発表しました。
研究	0.20	Various kind of researches mostly related to Speech & Image & Digital Signal Processing and Communications are under consideration such as: Granular synthesizer simulation by using different sample arrangements, Acoustic Noise Canceling by FXLMS and other Algorithms (DFXLMS), EEG by Density Based Support Vector Machine (SVM) Classification, Signal Processing Algorithm Implementation with Arduino, Brain Wave Pattern Classification by Self-Organizing Maps (SOM) EEG, Blind Component Processing, Non-Linear Echo Cancelling. In my lab, last year, we published many papers and attending many conferences. In coming year we will also consider to present in ITC-CSCC 2016, SIP 2016, and Joint Conference of the IEEE etc.		0.20	昨年度Journal論文は3編Journal of Information and Communications Engineering (JICE) Applied Science and Computer Science Publications, I(1), pp.36-40, Dec. 2015.とEuropean Journal of Information Science and Technology (EJIST), pp. 18-29, Dec. 2016とInternational Journal of Advanced Computer Science and Applications (IJACSA), Vol.8, No.1, January 2017. 掲載されました。国際学会は10編、The 31st International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC2016), Naha, Okinawa, Japan, pp.653-656, July 10-13, 2016に7編、3rd International Congress on Technology - Engineering & Science, Malaysia, February 9-10, 2017に3編掲載されました。国内学会1件Proceedings of the 2016 Joint Conference of the IEEE and IEICE, OKI-2016, University of the Ryukyus, Okinawa, Dec.11, 2016.に掲載されました。
社会貢献	0.10	As a foreigner professor, I would like to involve in more international activities in University of the Ryukyus. Collaboration of various researches based on the agreement between University of the Ryukyus and University of Tehran (Faculty of Engineering) and to sustain it for 18 years since 1998. 今年もまた共同研究行予定です。大阪府立大学から山下先生と共同研究行し、継続予定です。Also, collaboration of various researches based on the agreement between University of the Ryukyus and Chungbuk National University, Korea (Faculty of Engineering) with Prof. Heung Gyoon Ryu. On July 14, Prof. RYU plans to give a seminar here. This year I'll plan to invite another professor from Tehran University and / or I will have a visit from Tehran University to maintain our agreement and encourage more foreign students to come for graduate courses. This year I'll serve as a General co-Chair of ITC-CSCC2016 held in Naha, Okinawa from July 10-13. In Plenary Speech I'll invited Prof. Ryuji Kohno of National Yokohama University to give a lecture.		0.20	昨年度アシャリフはITC-CSCC2016の実行委員長を那覇で7月10~13日行いました。そこに370名(9国から)参加者、278編論文(213編論文6parallel トラック、65編論文3poster session) plenary3session, Tutorial1session行いました。Plenary speechをProf. Ryuji Kohno of National Yokohama Universityから招待しました。題名は: Dependable Wireless BAN of Things beyond IoT - Its R&D, International Standard IEEE802.15, Global Business. または、7月14日韓国CBNU大学からのRYU先生を招待し、琉球大学で講演会を行いました。題名は: R/D Activities and Radio Access Technologies for 5G Mobile Communication Systemで講演会を行いました。国際交流のための琉球大学情報工学科からアシャリフ教授テヘラン大学の8月22日~9月10日の間訪問としました。琉球大学とテヘラン大学の国際交流は1998年10月26日から(約18年前)始めました。この間、数十人学生と先生が(長期と短期教授、客員研究委員、研究生、博士課程、修士課程等)アシャリフ先生は来年定年退職になりますので、この国際交流を続けたいと思います。今回の訪問はまずProf. Kamareh Teheran大学の部長並びにDr. Nii電気情報学科長と訪問しました。この訪問で両側国際交流を是非続けて頂きたいとのことでした。他にアシャリフ先生はDr. Setarehran, Dr. Arrabi, Dr. Moradi, Dr. Rajae 及び他のテヘラン大学の電気情報学科教と会話ししました。特に信号処理、デジタル通信、知能情報、Brain Computer Interface (BCI)及び様々な研究打ち合わせまた院生のゼミも参加しました。更に、アシャリフ先生はテヘラン大学のNational Research Center for Brain Mapping を訪問しました。最後に、本学の研究協力の可能性についてテヘラン大学と話し合いました。是非多くの優秀な学生を国際交流、研究及び進学のために、工学部と工学研究科の特別プログラムを利用することを励ました。
管理運営	0.20	今年度は情報工学科専攻主任、国際交流委員会委員(Member of Advisory of Foreign Students)、教務委員会委員、学生交流専門委員会委員、特別コース運営委員会委員などの委員会活動に積極的に参加する予定です。その他、研究推進委員会委員もやっております。		0.20	情報工学科専攻主任、国際交流委員会委員、学生交流専門委員会委員、特別コース運営委員会委員、研究推進委員会委員などの委員会活動に積極的に参加しました。
進路指導	0.00	卒業生6名、修士4名(一名私費留学生一名国費留学生)、博士1人		0.10	卒業生6名卒業しました。修士3名(一名国費留学生今年度大阪大学新部博士課程予定)修了しました。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		遠藤 聡志	所 属		工学部 情報工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	学部専門: 線形代数、ソフトコンピューティング、人工知能、キャリア実践 共通教育: 情報科学演習 大学院情報専攻: 複雑系工学論 シラバスを活用し、計画的に実施する。Webcassを活用し履修者の理解度を適宜把握しながら講義を進行する。改組に伴い、とくに人工知能系科目の内容について、当間先生らと連携しつつ新シラバスを作成する。			0.30	線形代数、ソフトコンピューティング、人工知能、キャリア実践、情報科学演習、複雑系工学論をシラバスに則り実施した。実施にあたってはwebclassを活用し、資料提供、課題出題と提出管理を行った。新カリキュラムでの新設講義に関する情報収集と、2017便覧の講義内容編集を行い準備を進めた。キャリア形成支援の講義に対して、教育貢献者表彰を受け工学部FDで内容報告を行った。夏季休暇期間中に学生部学生課のリーダーシップセミナーを実施し、全学学生を対象としたワークショップをおこなった。		
研究	0.30	3名の卒業研究、2名の修士論文指導をベースに、機械学習を活用したweb mining、image recognitionの応用研究を進める。表情からの感情推定、微妙な表情表現の認識、映像からの擬似触覚のモデル獲得、6Hats モデルを想定した会議発話の分類システムの検討、CNNによるシーン認識システムの研究を行う。成果を、人工知能学会大会、ITC-CSCC、FIT2016などへ公表していく。			0.30	深層学習を用いた表情認識と感情推定に関する研究を行い成果をITC-CSCCで2件、FIT2016で1件発表した。2016年1月に行われた、ICAROB2016での発表に対し、2016年5月に指導学生がYoung Author Awardを受賞した。この論文はセレクトペーパーとして、Journal of RNAL, Vol.3, No.1に採録された。3名の卒業研究指導を行い、発話分類法の開発に関する研究を推進した。		
社会貢献	0.05	京都大学との合同デザインスクールを実施し地域課題の発見を行う。キャリア実践の講義を通して、公共施設の清掃ボランティアを行う。地域企業からの機械学習分野の活用に関する相談に対応する。			0.05	京都大学との合同デザインスクールの実施に協力した。StartUP Café KOZAのキックオフイベントにパネリスト参加し、人材育成に関する討論を行った。沖縄オープンラボラトリと連携して、機械学習のセミナーを開催した。キャリア実践講義で、学生と浦添市の公園清掃を実施した。		
管理運営	0.35	学生部学生生活委員会 工学部委員(5/30まで) グローバル支援機構アドミッション委員 URGCC情報工学科委員 工学部教育委員会委員 情報工学科教務委員長			0.35	目標設定で示した各項目に加えて、全学の学力部会長職を務め、全学の入試関連業務管理を行った。また、URGCCのプログラム委員会ではWGに参加し、委員会の円滑な運営に貢献した。アドミッション委員の職責で、オープンキャンパスの企画、運営に関する委員会の委員長を務めた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		岡崎 威生	所 属	工学部 情報工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	WebClass活用による学生個別の学習状況提供と、例題や演習を多用して講義方法を改善する。 教職志望学生の個々の特性を活かしながら社会性と実践能力を養成する。研究室学生に対する面談を通して、企業動向や就職活動の心得等を伝え、キャリア設計と創発的活動の向上に取り組ませることで社会的スキルの獲得を促す。 留学生を交えて英語によるコミュニケーション機会を増やすとともに、セミナーでの英作文指導を継続的に実施し、研究成果の英文発表を実質化する。		0.30	Webclass機能を利用して学生個別の修学レベル提示を逐次行った。例題と演習を多用した授業方法により知識の定着に努めた。ビデオ教材提供は継続して行ない、学生の復習に効果をあげた。教職科目「教職実践演習」を企画・実施し4年次教職志望学生に対する資質検証を図った。4年次に対する卒業後進路指導・相談を行い自己啓発を促進した。研究室学生に対し個人面談を行い、学修状況と進路希望や家庭環境を把握し、修学指導を行なった。4年次に対して面談を通して就学進路希望状況を把握し、社会人スキル獲得のための指導を行った。大学院での講義を英語で実施し、留学生と日本人学生双方のコミュニケーション活性化を図った。卒業研究中間発表と最終発表について予稿並びに発表方法を英語で行った。	
研究	0.30	大学院学生と共に研究論文を3本以上投稿し採択を目指す。 企業との共同研究を進めるために、定期的な合同セミナーを実施し、企業現場での課題理解とともに、企業研究員への知識・技術提供を緊密に行う。 国際会議の実行委員として職責を果たすとともに、研究領域の拡大に努める。		0.30	研究論文を3本投稿し1本が査読付き論文誌に採択され、1本が査読付き国際会議に採択され、1件が査読付き論文誌の審査結果待ちである。国際会議実行委員として大会運営に貢献した。新しい企業との共同研究を開始し、2企業とそれぞれ定期的に研究打ち合わせを行っている。地域連携推進機構共同研究室の利用申請を2件行い採択された。	
社会 貢献	0.15	高大連携事業(プレ実習とインターンシップ生支援)に取り組み、高校生の進学意識向上を支援する。 公開授業や人材育成事業に参画し、高度職業人養成に貢献する。 学生を交えて社会ボランティア活動(清掃活動等)に取り組む。		0.10	沖縄県立美来工科高等学校との高大連携事業において、教職志望学生による授業実践と高校生インターンシップ支援を行なった。学生と公園清掃活動を企画実施した。企業からの技術相談に应对し、産学連携の公募案件に1件参画した。デジタルコンテンツ制作者人材育成事業へ協力し、県内学生向けセミナーを支援し、ハッカソンイベント審査員を担当した。	
管理 運営	0.25	グローバル教育支援機構共通教育運営部門長として、中期目標達成に必要な事業の企画・実施、制度見直しを行う。 教員養成運営委員として、教職志望学生の資質向上と環境整備に努める。 学務電算化委員として、今年度導入の教務情報システムの円滑な導入・運用を果たす。 工学部教育委員として、改組後の入試・配属制度を整備し、入学者との適切なマッチングを図る。 工学部交通指導委員として、学部内の安全に配慮し、環境整備に努める。 オンライン授業評価が適切に実施できるよう指導する。		0.30	教員養成運営委員として教員志望学生ポートフォリオ指導や手引き作成を行った。グローバル教育支援機構共通教育部門部門長としてクォーター科目導入、ウイズドロー制度導入、共通教育提供体制の見直し、教学IRシステム構築、共通教育規則の改定等を行った。工学部教育委員として、新カリキュラムや運営体制の構築に寄与した。工学部改組に伴う教員免許課程認定申請作業に携わり、学部内調整と文部科学省対応を行った。工学部交通指導委員長として学部内交通安全の確保に貢献した。学科オンライン授業評価の実施を指導し全教科で実施した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		河野 真治	所 属	工学部 情報工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	[実験] Game 班では Unity によるゲーム作成を行い、Global Game Jam への参加を目指す。[授業] Programming 3 では、CI(Jenkinsなど)の導入を行う。課題の評価を即時で行うスクリプトを作成し実際に用いてみる。[授業] ソフトウェア工学の授業でLogic Programmingの節を追加する。		0.30	[実験] Global Game Jam への参加を行った。[授業] OSJenkinsを導入し良好な結果を得た。[授業] ソフトウェア工学の授業でLogic Programmingとシーケント代数を導入してみた。	
研究	0.50	[Gears OS] Gears OSプロタイプ作成の続きを行う。Data segmentの依存関係の解決。GPU部分の実装。 [Alice] 分散計算のトポロジに関する topology managerの改良を行う。 [Continuation based C] LLVM 版のData segment部分の拡張を行う。CbCのプログラミング手法を確立する。有限オートマトンと正規表現の実装を応用として採用する。 [CbCの理論] Agda上でのCode segment, Data segmentの実装を行い、CbCの理論的解析を進める [Jungle] Unity上のJungleを作成し、ゲームに対する応用と性能測定を行う。※外部資金獲得に向けた取組がある場合には必ず記載ください		0.50	[Gears OS] Gears OSのInterfaceの定義、contextの生成などができた。GPU部分の最初のプロトタイプを動かすことができた。 [Alice] 可能な再設計に関する考察を行った。 [Continuation based C] いくつかのバグを取り実用的に使うことができるようになった。 [Jungle] Unity用のJungleを作成した。Java版にいくつかの改良を行い、良好な結果を得た。	
社会貢献	0.05	[Open source conference ]で並列信頼研究のソフトウェアの紹介を行う。 [Java Kuche] 社会人、学生を対象とした、Java、ソフトウェアフレームワークの勉強会の 団体であるJava Kucheのサポートを行う。 [学会] 沖縄で行われるOS研究会のローカルアレンジメントを行う		0.05	[Open source conference ]で並列信頼研究のソフトウェアの紹介を行った。 [Java Kuche] OIST での勉強会を行った [学会] OS研究会をホテルモントレーで行った。	
管理運営	0.10	[サーバ管理] 学科のサーバと各研究室のサーバの連携を考える。クラウドの使用率を上げる。		0.10	[サーバ管理] さくらクラウドをサーバのバックアップとして用意することができた。OSの課題でのさくらクラウドの使用率を上げることができた。	
進路指導	0.05	修士の学生に、スケジュールリングを意識した就活を提案する。3年次の学生にプログラミング3,4を通して自分でアピールできる プロジェクトを達成させる。多様な就職先を提案する。		0.05	適切な指導を行った	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉田たけお	所 属		工学部 情報工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	学部担当科目(情報工学実験Ⅰ～Ⅳ)を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。学生による授業評価アンケートの集計結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行う。			0.35	授業評価アンケート等の結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行った。今後もより一層改善をする必要があるが、今年度の目標は達成したと考える。		
研究	0.30	新規研究テーマでの学会発表および研究論文の採択を目指す。また外部資金を獲得し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。			0.30	新規研究テーマについて、電子情報通信学会の合同講演会において発表を行った。論文誌への投稿および外部資金の獲得に関しては達成できなかったため、次年度はこれらを達成できるように努める。		
社会貢献	0.05	毎年、沖縄県内で開催されるLSIデザインコンテストの実行委員を務める。			0.05	LSIデザインコンテスト(2017/03/10実施)の実行委員として、コンテスト運営に携わった。		
管理運営	0.15	学部選挙管理委員、学部予算配分委員、学科予算、学科オープンキャンパス委員、学科計算機実験委員などの委員会活動に積極的に参加する。			0.20	全ての委員会に積極的に参加し、貢献を行った。		
進路指導	0.15	学部2年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導に努める。研究室に所属する学部学生および修士学生に対する進路指導に努める。			0.10	学部2年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導を行った。また、研究室に所属する学生に対しても進路指導を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮里 智樹	所 属	工学部 情報工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	学科担当科目(情報工学実験1、2、3、4)を担当し、エンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行う。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱの適切な実施に向けた支援を行う。		0.20	学科担当科目(情報工学実験1、2、3、4)を担当し、実験2、3においてエンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行った結果、学生の自発的な活動を引き出した。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱに関しては、積極的に関わる事ができなかった。次年度はスケジュール管理に配慮し、関わり方を改善したい。	
研究	0.30	大学院博士過程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部資金については、文科省による「成長分野等における中核的人材養成等の戦略的推進」事業へ応募する(予定)。		0.30	文科省による「成長分野等における中核的人材養成等の戦略的推進」事業が採択され、IoT人材育成のためのPBL教材開発を行った。来年度も継続予定であり、この事業の成果を論文に繋げたい。	
社会 貢献	0.20	伊江島地域WiMAXインフラの保守運用に関する技術的サポートを行い、離島環境における情報通信インフラを活用した地域活性化支援を行う。教育者研究会や琉球大学教員免許状講習の運営サポートを行う。		0.20	伊江島地域WiMAXインフラの保守運用に関する技術的サポートを行い、離島環境における情報通信インフラを活用した地域活性化支援を行った。教育者研究会や琉球大学教員免許状講習(本島1回、宮古島1回)の運営サポートを行った。沖縄県情報産業振興課による「IT人材力育成強化事業」の選定委員を務めた。	
管理 運営	0.30	教務委員、安全衛星改善委員、計算機実験委員、ニュース編集WG委員、広報・図書委員などの委員会活動に積極的に参加する。		0.30	学部改組に向けた学科パンフレットの改定作業を中心的に担当し、教務委員、計算機実験委員、図書委員などの委員会活動に積極的に参加した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高良富夫	所 属		工学部 情報工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	シラバスに示したとおりの学科の学習教育目標に沿った内容と方法、評価基準・方法により、学部担当科目および大学院科目を担当し、効果的な講義を行う。プロジェクトベース学習を推進する。自分の研究成果を活用してデモを行い、おもしろい講義を進める。「科学者の倫理」の教育を推進する。「プロジェクト・デザインI」において、将来の就職を見据えた進路指導を行う。研究室の学生の進学・就職指導を行う。			0.40	シラバスに示したとおりの内容と方法、評価基準・方法により、学部科目および大学院科目を担当し、WebClassaを活用し効果的な講義を行った。「プロジェクトデザインI」でプロジェクトベースの学習を推進した。自分の研究成果を活用した音声のデモを多数行い、興味深い講義を進めた。「科学者の倫理」の教育を担当・推進した。「プロジェクト・デザインI」において、将来の就職を見据えた内容を提供し進路指導に役立てた。研究室の学生に面接し進学・就職指導を行った。		
研究	0.30	学生と共に研究論文を投稿し採択を目指す。科研費の研究テーマを推進する。国際学会及び国内学会で発表する。他大学と連携した研究を継続する。企業等と連携した研究を行う。			0.30	国際学会に論文を投稿し採択された。科研費の研究テーマとして「赤ん坊の言語獲得モデル」を推進した。国際学会で2件、国内学会で2件発表した。茨城大学と連携した研究を行った。		
社会 貢献	0.10	県内でのIT関連審議会に参加する。福祉関係の学校の非常勤講師を務める。公開授業・出前授業を提供する。教員10年研修を提供する。県内県立高校の研究プロジェクトに協力する			0.10	県内でのIT関連審議会2件に参加した。言語福祉関係の学校で音声言語処理を講じた。公開授業を2件提供した。教員10年研修を琉大・石垣で行った。県内県立高校の研究プロジェクトに協力し、高校は全国で優秀な成績をおさめた。		
管理 運営	0.20	学科入試委員長として、AO入試・3年次編入入試・推薦入試・大学院前期課程入試が効果的に行われるよう、入試委員と協力して精力的に取り組む。			0.20	学科入試委員長として、AO入試・3年次編入1次2次入試・推薦入試・大学院前期課程入試・外国人入試がスムーズに行われるよう、入試委員と協力して学科長・専攻主任とともに精力的に取り組んだ。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山田 孝治	所 属		工学部 情報工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	2年次の指導教員として、サポートを積極的に行う。授業に関しては、資料の充実に加え、学生の実体験向上型の授業に努めたい。昨年に引き続きプロジェクトデザイン2を担当するので、昨年度成果を分析する形で授業を進める。学部:ソフト演習1, ソフト演習II, 情報工学実験3, 情報科学演習, 知能ロボット, 大学院:知能ロボット論, Intelligent Robotics, 博士後期:創発知能ロボット工学特論を担当する。			0.35	2年次指導教員として、サポートを積極的に行えた。充実した資料を提供し、授業の向上に努めた。プロジェクトデザイン2の成果のビデオを公開することができた。担当する実験班が、ETロボコンに地区総合優勝し、全国大会派遣を勝ち取った。また、新年に開催されたITまつりでも、同グループが優勝した。		
研究	0.30	昨年度までの研究に区切りをつけ、トレンドなドローンの研究、ディープラーニングなど、新規立ち上げと発表に努める。また、継続的に行っている車椅子支援システムの成果を論文にまとめる。			0.30	ディープラーニング、ドローン制御、VR研究を始動し、年度内に4件の発表を行った。また、車椅子支援システムについては前年度の論文が受理され、発表も2件行うことができた。		
社会貢献	0.10	例年行っている小中学生に向けたロボット工作教室を開催する。			0.05	株式会社CAアドバンスと共催で、浦添市内間小学校でDigital Kids Okinawaを開催し、小学生にプログラミング教室を行った。		
管理運営	0.25	学科長、予算委員会他、それぞれ他の教員を患わせることなく、状況を良くできるように対応する。また、昨年度に引き続き工学部高専連携委員会委員長として、今年度も高専との学生研究発表会を成功させ、高専との共同研究の拡張を進める。			0.30	・学科長として、教員の協力を得つつ、教員をまとめ、学科の運営を行うことができた。 ・また、昨年度に引き続き工学部高専連携委員会委員長として、高専との学生研究発表会を成功させることができた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		赤嶺 有平	所 属	工学部 情報工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	実験1, 2においてプログラミングの学習曲線を考慮し, 実施順序の入れ替えを検討する。実験4では, 期限内にプロジェクトを完了出来るよう, テーマの選定を工夫し, 必要なライブラリ等を提供できるようにする。		0.30	実験1, 2において昨年までの習熟状況を考慮し, 難易度を調整した。実験4では, 音声認識ライブラリ等を整備し, 期限内のプロジェクト完了を達成した。また, 同実験の成果物はITしんりょう祭りにて展示され, 優秀賞を受賞した。	
研究	0.50	現在, AR(拡張現実感)を用いた観光案内システムをテーマとした科学研究費基盤(C)のプロジェクトに研究分担者として参画している。この成果に基づき研究代表者として新たな科研獲得に向けて準備する。		0.50	AR観光案内システムに関する研究を進めた。新たに特定物体認識アルゴリズムを開発し, 口頭発表を行なった。	
社会 貢献	0.10	AR(拡張現実感)を用いた観光案内システムの開発を進めていき, 実用化を目指して特定の観光施設(史跡)に関するコンテンツ作成を行う。		0.10	AR観光案内システムの実用化を目指し, 産学連携に向けて企業との話し合いを行なっている。	
管理 運営	0.10	教務, 入試, 予算, 安全衛生の各委員会において着実に業務を遂行する。		0.10	各種委員会において業務を遂行した	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		長山 格	所 属	工学部 情報工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	専門科目における学生の実践力向上を図る。データベースの講義では実践力を養うためフリーDBシステムを授業で活用する。数理計画とアルゴリズムでは、数値計算パッケージを用いた大規模計算演習を実施し、学生の応用力・実践力を養う。また、共通教育科目(情報科学演習)についても、新入生にわかりやすく、かつ実践的実習を重視した授業を行う。		0.30	講義(データベースシステム)(数理計画とアルゴリズム)では目標通りフリーDBソフトおよび数値計算パッケージを活用した実践的な講義を行った。また(マルチメディア情報処理)では実例に則した例題演習を行うことにより、学生の実践力の養成を図った。共通教育科目(情報科学演習)では、実用に即した理解しやすい授業に努めた。またenPiTiにも参画した。	
研究	0.30	研究成果の査読論文発表を1本以上行うことを目指す。また、口頭発表を1件以上行う。国際会議実行委員として企画運営等を行う。研究分野に関する著書執筆作業を進める。さらに、国内外の研究機関との共同研究を計画・実施する等の連携活動を推進する。		0.30	査読論文を4本、国際会議1件を発表した。競争的外部資金として科研費補助金(基盤C)を継続して獲得した。IEEE IJHSP2016(Taiwan)、ICEMS2016(Chiba)、ITC-GSCC2016(Okinawa)のプログラム委員として国際会議の運営に参画した。某国立研究所と地球環境計測に関する調査研究実施を協議中。また、新しい著書の企画執筆作業を進めている。	
社会 貢献	0.20	各種学会の実施と運営を行う。各種学会・国際会議等の委員を務め、学術振興事業への貢献、学会集会の計画・実施、ならびに産学交流と社会貢献を行う。さらに、地域貢献への対応として社会人等を対象とする公開授業を提供、企業との連携による研究を推進する。		0.20	電気学会論文査読委員を務めた。IEEE国際会議等の論文レフェリーを担当した。社会人向け公開授業(マルチメディア情報処理)を提供し社会人学生を受け入れた。国立大学54工学系学部サイトの広報活動として「おもしろ科学実験室」記事ページを作成・提供し公開した。また、某民間企業および琉球大学防災センター・ラボと防災システムに関する調査研究実施を継続中。	
管理 運営	0.10	大学入学試験委員、学部教授会、研究科委員会、学科委員、学生相談員などの委員会活動およびFD活動に積極的に参加する。		0.10	教授会、学内委員会、FD講演、広報委員会など各種委員会活動に積極的に出席した。また、大学入試2次試験数学委員を努めた。	
進路 指導	0.10	学生の進学・就職・進路指導・相談等を積極的に行う。また、修士および4年生に対してはゼミ・面談等を通じて進路指導・修学指導を多面的に行う。		0.10	学生の進学・就職・進路指導などゼミおよび特段の対応が必要な場合は個別に学生相談を実施した。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		長田 智和	所 属	工学部 情報工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	講義科目「情報ネットワークⅠ」では、教科書に基づいて基本的な情報システム・情報ネットワーク技術について分かりやすく講義する。同「情報ネットワークⅡ」では、情報システム・情報ネットワークの応用技術について講義する。情報工学実験Ⅰでは、実機を用いた基本的なネットワーク構築のスキルを習得させる。同Ⅲでは、学科計算機システム管理を通して、実践的な情報システム構築管理のスキルを習得させる。研究ゼミでは、情報システム・情報ネットワーク技術に関する実践的な研究テーマについて学生に取り組みさせる。学生支援については、担当学生が希望する進路(就職・進学等)に進めるよう、積極的にサポートする。特に、就職希望の学生に対しては、就職試験対策(履歴書チェック、面接対策等)を積極的に行う。		0.30	講義・実験科目については、年度目標を達成した。研究ゼミでは、指導する学生全てに実践的なテーマに取り組みせ、全員卒業認定を受けることができた。また、就職を希望する学生のサポートも積極的に行い、全員が就職内定を勝ち取った。 以上のことから、教育・学生支援について、年度目標を達成できた考えている。	
研究	0.30	情報システム・情報ネットワーク技術を活用した、地域における情報サービス基盤(SDN/クラウド技術やID連携技術など)構築に関する研究を推進する。その過程において、研究会発表、さらには、成果論文発表(ジャーナルへの投稿)に向けて開発成果を蓄積する。 (成果目標:ジャーナル2編以上、口頭発表3件以上)		0.30	今年度から獲得した科研費などを活用し、研究を推進した。その結果、ジャーナル2編、口頭発表3件の成果を達成した。 以上のことから、研究について、年度目標を達成できた考えている。	
社会 貢献	0.20	工学部が沖縄県警と締結した「サイバー犯罪対策に係る連携した取り組みに関する協定」に基づき、国民・県民に対するサイバー犯罪の防止のための捜査員研修や社会への啓発活動に取り組む。また、セキュリティ・ミニキャンプ沖縄実施協議会の会長を拝命したので、同イベントの成功に向けて取り組む。さらに、沖縄に誘致したIT系ワークショップの現地運営責任者としてカンファレンスを成功させる。		0.20	沖縄県警と締結している協定内容の実施、セキュリティミニキャンプの実施、IT系ワークショップ及びカンファレンスの実施など、全て成功裏に実施した。 以上のことから、社会貢献について、年度目標を達成できた考えている。	
管理 運営	0.20	学科各種委員会の業務を率先してこなし、円滑な学科運営に貢献する。また、全学の情報システム運営委員、セキュリティ運営委員等としての職務も、自身の専門性を生かして積極的に取り組む。		0.20	学科・学部・全学の各委員の業務に積極的に取り組んだ。特に、部局セキュリティ責任者としてセキュリティインシデント発生時の対応、工学部後援会事務局担当者としての対応等、責任感のある対応ができた。 以上のことから、管理運営について、年度目標を達成できたと考えている。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		名嘉村 盛和	所 属		工学部 情報工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	<p>専門教育はJABEE基準の授業を行う。アルゴリズムとデータ構造、並列分散処理では、プログラミング能力向上を意識した内容にする。モデリングと設計では、PBLの教育効果があげられるような工夫を行う。卒業研究、セミナーでは学習教育目標を高いレベルで達成できるよう細かい指導を行う。enPiTと連携して大学院の実践系授業を実施する。また、筑波大学、産業技術大学院大学等と連携してenPiT2の採択を目指す。進路指導担当として就活サポートをしっかりと実施する。</p>			0.40	<p>担当する全ての科目においてJABEE基準の授業(教育内容および達成度評価)を行った。モデリングと設計では、KPT分析を徹底させチーム開発の効率化を促した。アルゴリズムとデータ構造では、再履修生用のクラスも別途開講し、少人数教育により基礎から教育する工夫を行った。卒業研究では学生の自主性を生かしながらも細かい指導をすることができた。大学院教育ではenPiTと連携して高度な実践教育を実施した。enPiT2が採択され次年度スタートに向けてカリキュラム整備等を行なった。学科の進路指導担当として学科学生に対する就活サポートを行った。</p>		
研究	0.35	<p>システム数理、最適化計算、並列処理に関する研究を引き続き推進する。またバイオ情報処理等、学際的なテーマ、および産学連携研究にも積極的に挑戦する。研究成果はできるだけ論文誌、国際会議、国内研究会で報告する。学会活動として電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員会副委員長として当該分野の研究を推進する。</p>			0.30	<p>国際会議3件発表、国際ジャーナル1件は現在修正中となっている。また、電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員会副委員長として全国各地で研究会を開催する等、当該分野の研究を推進するとともに、沖縄開催の400名規模の国際会議を主催した。さらに、県内企業との産学連携研究を2件実施し、それぞれ成果をあげた。</p>		
社会 貢献	0.10	<p>沖縄県情報通信産業の発展に向けた産学官連携を推進する。人材育成にかかる沖縄県、民間の取り組みに積極的に参加する。</p>			0.10	<p>沖縄県の離島振興、情報通信産業の活性化に関する委員会等に積極的に関わった。ETロボコン運営委員、沖縄地区審査委員長の役割を通して若手エンジニアの人材育成活動を行った。</p>		
管理 運営	0.20	<p>副学部長として、工学部の研究活動の推進を牽引するとともに、大学院教育の充実を図る。</p>			0.20	<p>副学部長として学部の研究活動の推進、評価、及び大学院教育の取りまとめを担当した。また、全学の複数のタスクフォースWGに積極的に参加した。</p>		
	0.00				0.00			
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>			1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>					<p><input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。      <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。</p>			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		和田 知久	所 属		工学部 情報工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト 比(予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト 比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	1) 担当科目で、JABEE基準並みで実施をする。 2) 設計関連講義で、実習を取り入れた実践的内容を実施する。 3) 道徳・倫理関連の講義を充実したものにする。 4) 教員免許講習他、通常外の講義・教育を積極的に担当する。		0.25	1)～4)の目標を達成した。
研究	0.25	1) 大学院学生の国際学会発表を実現する。 2) 交流協定を活用し国際研究を活性化し、成果を出す。 3) 共同研究等で社会的な成果を出す。		0.25	1) 院生はプーケットの国際学会発表し、自分も米国学会で発表できた。2) 国際交流はそれほどできなかったが、総務省SCOPEプロジェクトを沖縄高専と実施し、次年度フェイズ2の採択も果たした。3) 企業との共同研究で、水中通信装置の開発がかなり進み、特許出願し、製品化も視野に入った。
社会 貢献	0.20	1) 研究の実応用として、企業との開発研究に取り組む 2) 高大連携出前講義等に積極的にかかわる		0.20	1) 水中通信装置「アコストローベ」の開発が順調に進んでいる。次年度の事業化を目指している。2) 高校向けの大イベント夢ナビで講演を行うことができた。
管理 運営	0.20	1) 評議員として、全学的な責任を果たす。 2) 評議員として、各部内の責任を忠実に果たす。		0.20	改組に向けて、入試ワーキング長、教育委員長として、ほぼ順調に準備を進めることができている。
進路 指導	0.10	1) 研究室や周辺学生達の社会性をはぐくみながらの進路指導を実施する。		0.10	卒研・修論はほぼ無事に問題なく完了した。学部1名の学生の個別対応中で、これはまだ時間がかかるが継続して指導を行う予定である。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		當間 愛晃	所 属	工学部 情報工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.65	H28年度及び29年度は、新科目担当および新カリキュラム対応で教育に占めるウェイトが大きくなる見込みである。 (1)卒業研究およびセミナーを担当し、研究活性化に結びつくよう学生指導に努める。例年通り、沖縄高専との連携強化に向けた取り組みを検討する。 (2)URGCC、エンジニアリング教育、時代の流行や今後求められるノウハウを考慮し、新担当のプログラミング1,2及び人工知能系科目の設計・実施、また継続中の実験III/IVのテーマ(データマイニング班)の改善に取り組む。 (3)昨年度の申し送り事項を踏まえ、4年目となるデザインスクールの企画運営実行を行う。 (4)2013年度入学の年次指導教員として、進路指導、卒業研究着手条件を見据えた履修計画指導に努める。 (5)2013年度学生への目標「目指す丘」探しをサポートする。		0.65	(1)担当科目の評価基準を明示し、達成できるよう指導した。また、沖縄高専との交流研究会を継続実施しており、互いに刺激し合えるよう努めた。 (2)プログラミング1,2を設計・実施した。特にプログラミング1時の反省点(課題少なめ、ペアプロ調整)を踏まえ、プログラミング2では細かく達成度を確認できるよう課題設計を見直し、またペアプロパートナー調整では話易さを中心に再調整した。実験3,4(データマイニング班)についてはコードレビュー・開発スタイル指導を実施できるよう、改善に努めた。 (3)COC+採択され、プロジェクト成果報告を行った。今後は継続及びカリキュラム化を見据えた企画運営を行う予定である。 (4)(5)個人面談・ML・ブログを通して指導に努めた。例外的な指導が必要な際には最大限努力を行った。	
研究	0.30	(1)学術会議等イベント参加時の情報整理を兼ねたブログ記事の作成。 (2)大学院修士課程の学生と共に学会発表を通じた研究活動の公開並びに、研究発展を目指す。 (3)研究交流を行い、研究の幅を広げる。特に今年度は、機械・宮田先生らとの連携強化を検討する。 (4)国際会議or査読付き論文への投稿を目指す。		0.30	(1)研究発表および聴講参加した情報処理学会全国大会、沖縄高専との交流研究会等イベントの参加記録を整理し、ブログ記事として公開した。 (2)一部学会発表できていない院生がいるが、平均的には一人一回以上の学外発表を行っており、3月の発表を含めて合計3件の学会発表となる予定である。 (3)宮田・遠藤・岡崎先生らとの合同でデータ解析コンペティションへ参加した。学生指導を含めて次年度も実施予定である。 (4)国際会議SCMへ投稿・発表した。	
社会 貢献	0.03	(1)教育研究活動の学外に向けた情報発信。 (2)社会連携委を通じた交流。		0.03	(1)学科ブログを通してイベント参加レポートを公開した。 (2)後援会引き継ぎまで、新担当者らと連携の上実施した。	
管理 運営	0.02	(1)各種委員会活動に積極的に参加する。		0.02	(1)積極的に参加し、教務委／社会連携委等の運営業務を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		